

新潟県小学校校長会報

題字…今山政三郎氏

発行所
新潟県小学校校長会広報部
新潟市中央区万代1-3-30
万代シティホテルビル3階
TEL 025-290-2231
FAX 025-245-6060
E-mail: nkskgo@nigata-net.or.jp
印刷所 株式会社 文久堂



管理職の原点

新潟県小学校校長会 副会長

大島 一英

当校の教育支援員の中で、この春医師免許を取得するとともに、大学の医学部を卒業した若者がいます。本来であれば、四月から研修医としてキャリアを積むはずであった彼に、その生き方の真意を尋ねてみました。端的に言う、職場体験のように子どもが様々な大人や高齢者と関わりながら、自分のやりたいことや職業などを選択できる環境をつくりたいとのことでした。その結果として「将来、医師になりたい。」という子どもが増えたらうれしい。というものでした。そのためには、子どもとの関わりが深い教員の考えやその業務内容を知ることが必要だとし、一年間研修医としての勤務経験を遅らせることにしたのだそうです。

彼の日々の勤務状況を見てみると、限られた時間を無駄にするまいという貪欲さ、何でも吸収しようとする純粋さ、飽くなき探求心が伝わります。その姿から「あなたはどのようにして管理職になろうと思ったのか。」と問われている感覚になり、私は、管理職としての原点を再認識することとなりました。

教頭在職期間、私は、お目当ての先生を尋ねて職員室にきた子どもに、「〇〇先生はいないけど、教頭先生ならいるよ。」と声をかけ続けました。些細なことですが、これが私の管理職としての原点であろうと思います。子どもは必要感をもって職員室に來ています。何かを伝えたかったに違いありません。その子のために何ができるか。誤解を覚悟で言いますが、先程の私の声には、「私でよければ話を聞くと。」というメッセージを込めていました。

学校は子どものためにあります。私の学校経営の幹でもあります。彼は、学校に戻ってきた私へ無言の叱咤激励を贈ってくれたのです。ありがとうございます!!

(十日町・中魚 十日町小学校)

令和七年度

第一回 県小評議員会 (報告)

日時 六月四日(水) 十四時～十六時十五分
会場 各学校等(オンライン)

一 開会の挨拶

藤本会長

私たちは、大いに夢を語り、未来を拓いていきたい。そして、学校を元気にする責務がある。そのためには、校長一人一人が元気でなくてはならない。県小を身近に感じて所属感を高め、様々なことに積極的に取り組んでいていただきたい。

二 議長選出

糸魚川市 評議員

三 報告

会務報告、全連小、関プロ関係

四 協議

(一) 各部署事業計画について

1 対策部

各学校や各郡市・政令指定都市小学校校長会の運営に資するため、「市町村における教育関連予算等に関する調査研究」を実施し、対策活動の参考となる資料を提供する。

2 福利部

教職員の給与水準等の維持向上やライフプランニングのための要望活動に資するため、「校長の給与実態」「退職後の勤務状況や再就職状況」「校長退職後を見据えた意識」等について調査研究活動を行う。

3 研修部

学習指導要領の理念の実現と地域の信頼を得る創造的な学校経営の展開に資するため、教育課程・生徒指導・同和教育の三委員会による調査研究活動を実施し、資料作成や同和教育推進の活動を行う。

4 広報部

会員の連携と学校経営の改善・充実に資するため「初等教育」「校長会報」等を発行し、各小学校校長会の活動や当面する諸課題に関する情報提供を行う。

(二) 関プロ新潟大会について

(三) 令和七年度「要望書」について

五 連絡

令和八年度代議員会

令和八年五月八日(金)

主管 新発田・北蒲原郡市小学校

主幹 長会、胎内市小学校校長

六 閉会の挨拶

大島副会長

関プロ新潟大会が直前に迫ってきた。各地から新潟を訪れられる校長先生方に対して、ぜひおもてなしの心で対応していただきたい。

(広報部副部長)

関東甲信越地区小学校長研究協議会

新潟大会を終えて

新潟県小学校長会 研修部長

六月十九・二十日、主会場の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターに一部九県から約九百五十名の会員が参集した。全連小の大会主題「自ら未来を拓きともに生きる豊かな社会を創る

日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を受け、副主題を「未来を拓く新たな価値を創造し、豊かな社会をともにつくる子どもを育む学校経営」とし、第七十七回関東甲信越地区小学校長研究協議会新潟大会が開催された。

一 開会式・全体会・記念講演

開会式では、田沢憲関東甲信越地区小学校長会連絡協議会会長、藤本高雄新潟大会実行委員長から挨拶があった。また、新潟県知事 花角英世様、新潟市長 中原八一様を始め、ご来賓の皆様からご祝辞をいただいた。

記念講演では、CHIBUUNIT Y代表の国友慎之助様から、「『新潟から世界へ』く地域密着！ 教育・観光・産業に貢献」と題して、講演をいただいた。ダンスと医療・教育・観光・農業など他業種を結び付け、活力ある取組を広げている国友様の熱い思いに大いに刺激を受けるとともに、世界大会四連覇を果たしたCHIBUUNIT

TYの圧巻のダンスパフォーマンスに心を奪われたすばらしい講演であった。

二 分科会・分散会

二日目は四会場に分かれ、十二分科会の提言内容を基に、二十の分散会の視点に沿ったグループ協議を行った。

分散会では、提案発表を基に、各校の課題やその解決策について、少人数で意見交換した。どの分散会でも、参会者が各都県の垣根を越えて、これからの学校経営を見据え、知恵を出し合い、真剣に語り合っており、協議を深めている様子が見られた。また、「校長」が主語となる具体的な提言にまとめることで、校長が果たすべき役割や、発揮すべき指導性について明らかにすることができた。多様で複雑さを増す課題に対し、各会員が優れた取組を共有し、一丸となって解決の方向性を見いだすことで、今後の学校運営の改善に生かされる有意義な研究協議会となった。

最後に、田中正栄新潟市関プロ推進委員長を始めとした新潟市小学校長会の皆様の緻密な開催計画の立案及び準備、当日の温かくきめ細かな運営により、昨年度のプレ大会と今年度の本大会が成功に導かれたことに感謝したい。

会報
分科会
1

第I群 学校経営 第三分科会

学校経営ビジョンの実現を図る
効果的な組織マネジメントの工夫

柏崎市立二田小学校

一 提案発表の概要

「学校の強み、地域の強みを生かす組織づくりにおける校長の役割」を副題とし、提案発表を行った。

最初に、西山地域の現状を説明した。少子化に伴い、地域全体で子どもを育む思いが高まっている西山地域。西山地域の三校は、効果的に、継続的に地域とどのようにつながることができるかを課題とし、各校の学校経営ビジョンに地域連携がどのように位置付けられているか調査した。各校のこれまでの取組を述べた後、校長の役割としての成果を二点説明した。

(一) 地域連携を推進する校内組織
推進役を位置付けた校内組織の構築、校長の率先した地域連携への関わりが、教職員の意識の高まりにつながっていた。

(二) 相互利益を生み出す校内体制
学校と地域をつなぐコーディネーターとしての役割が、活動の充実につながっていた。地域も学校との継続的な連携により、活性化につながった現状がある。

最後に、校長の役割について「校長は、地域の強みを把握し、学校に生かすコーディネーターとしての役割が必

要不可欠である。強みを学校経営ビジョンに反映し、地域の願いや思いを教職員と共有する。継続的、かつ効果的に推進ができるよう校内体制を工夫する。」と考えをまとめ、提言とした。

二 質疑・グループ協議等

質疑では、「連携推進に向けた今後の考え」について質問があり、「地域との対話」を大事にしていこうという語った。

グループ協議では、「校長」を主語とした活発な意見交換がなされた。各グループからは、「人となりが、人的資源を最大限に活用する」「率先して地域に向き、地域とつながり、地域を知る」「学校経営ビジョンを明確に示し、教職員、地域の心に火をつける」「どんな未来、どんな地域、どんな子どもにしたいか対話の中で共有する」「地域のニーズを自らつかむ」等の考えがまとめられた。

分散会を通して、様々な方からご意見を頂いたことで、校長としての役割が明確になり、自信をもつことができた。貴重な機会を頂いたことに感謝し、これからも「ともに歩む地域の学校」を目指していきたい。

会報 分提 案報告 2

第Ⅱ群 教育課程 第六分散会

発想力、創造性を発揮・育成する 教育課程

長岡市立栃尾南小学校

一 提案発表の概要

これからの時代・社会を生きる子どもに備えたい資質・能力は知性である。知性とは、何が最適かを見いだし、問い続ける力である。そして、この知性は、発想力と創造性を発揮し、最適解を考え続ける中で磨かれる。長岡・三島校長会では、この発想力と創造性の育成に着目し、各校での授業づくりと指導計画整備の取組を見直し、具体的な手立てや工夫を学び合った。

(一) 授業づくりについて

子どもが発想力や創造性を発揮するためには、問題解決に向かう協働的な学習において、メタ認知能力を働かせ、既有的知識や考えをつなぎ合わせて熟考したり、振り返りを通じて学んだことを自覚化したりする工夫が重要である。これにより、子どもは「自分にとって新しい考え、解決方法、自己の在り方を見いだした」という実感を得て、学びを深めることができる。

(二) 指導計画の整備について

発想力や創造性を育む基盤として、豊かな体験活動を組み込んだ指導計画の整備が不可欠である。地域と連携・協働した体験活動を計画し、充実させ

ること。また、子どもの追究する姿から評価・修正を加え、指導計画を継続的に磨き上げていくことが大切である。

(三) 校長の役割

知性を磨くためには、発想力・創造性を発揮して考える授業づくりと豊かな体験活動を備えた指導計画の整備を両輪として教育課程を整えることが重要である。そのために、校長は以下の役割を担う。

- 社会の動向や子どもの実態を踏まえ、育むべき資質・能力を見極め、示す。
- 育成の方針や方策を定め、全職員で共有し、実践へと導く。
- 地域と協働し、教育資源の活用や学習活動の充実を図る組織を構築する。
- カリキュラム評価が可能な校内の実践評価体制を構築する。

二 質疑・グループ協議等

メタ認知が現代の教育実践を考える上で有効な視点であることが再認識され、自校の教育活動の意味や効果を考えるきっかけとなった。また、地域連携や子どもの実態に基づいた柔軟なカリキュラム開発の重要性への理解も深まった。この学びを自校で活かそうとする意欲が生まれた協議となった。

会報 分提 案報告 3

第Ⅴ群 教育課題 第二十分散会

創意あふれる教育活動を展開するための 持続可能な家庭・地域との連携の在り方を求めて

新発田市立猿橋小学校

一 提案発表の概要

猿橋小学校は、昨年度創立一五〇周年を迎え、歴史と伝統を継承しながら新たな歴史を刻んでいる学校である。地域の方や保護者の方からも多くの支援を受けながら日々の教育活動を進めている。その一方で、地域の方々の教育活動への参加や支援が、職員や子どもたちにとって「当たり前」の認識になっ

ていないのではないか、関心や感謝の思いが薄れてきているのではないかなどという点が、私が感じた問題点である。研究としては、次の三点から取り組んだことについて発表した。

(一) 下町交番地区防犯連絡協議会との連携

協議会の構成メンバーは、ほぼ自治会の町内会長である。皆さん仕事をもちながら、荒天時や集団下校訓練では仕事を休んで学校の活動に協力してくださっている。そのあたりの協議会の方の思いや状況を職員に伝え、全校朝会でも感謝の思いを伝えるようにしながら、協力体制を構築している。

(二) 学習ボランティア団体の編成や活動の再開

しばらく地域コーディネーターが不

在であったが、今年度ようやくやってくださる方が見付かった。このコーディネーターの方を中心に、ボランティア活動が自主的組織的に進めていけるように進み始めたところである。

(三) 安兵衛太鼓部への応援・支援の継続

五年前に地域・PTAに指導の主幹を移行したばかりである。まずは職員が、そして子どもたちが関心をもって安兵衛太鼓部の活動を応援していくところが肝要だと考えている。

二 質疑・グループ協議等

持続可能な取組であることと、職員の負担軽減の両方がポイントであるという意見が多かった。また、自校でも同様の問題点を感じていたので参考になったという声も聞かれた。そのためには、学校のねらいや困り感などの情報をPTAや地域の会議などで発信していくことが大事ではないかという意見も出された。提言としては「校長として地域連携の重要性を経営方針に位置付け、職員・地域に発信し、同じ思いで取り組んでいくこと」が持続可能な連携を進めていくためのポイントになるとまとめられた。

市
都
市
指
定
郡
政
令
だ

学ぶ校長会、行動する校長会

「わくわくを未来へ」

上越市小学校長会

上越市小学校長会のモットーは、「学ぶ校長会、行動する校長会」です。上越市教育大綱「わくわくを未来へ」と上越市学校教育目標「ふるさとを愛し、自立と共生ができる子どもを育てる」の実現に向け、小学校四十五校（上越教育大学附属小を含む）が連携して活動しています。取組を二つ紹介します。

一 ハイブリッド形式の定例会

かつては業務改善の観点から隔月開催とされていた定例会ですが、会員の強い要望を受け、昨年度からオンライン（一時間）と参集（半日）を交互に毎月実施しています。オンライン定例会では、教育委員会からの指導の後、地区ごとのブロックに分かれて情報交換を行っています。一方、参集定例会では、教育委員会の指導に加え、各種協議や研修等を行い、その後、地区や学校規模を超えたランダムなグループでテーマ別の情報交換を行っています。このようなハイブリッド開催により、参加の負担を軽減しつつ、日々の小さな悩みから市全体の教育課題に至るまで、協議、相談できる貴重な場になっています。

二 学校教育推進委員会

上越市では、小学校長会と中学校校長

会が合同で組織する上越市校長会があり、その中に「学校教育推進委員会」が設置されています。令和二年度までは「行財政委員会」として、主に教育委員会との予算交渉を担ってきましたが、令和三年度より名称を改め、学校運営に関する調査研究と政策提言に重点を置いた活動へと転換しました。

今年度は、これまでの四つのワーキンググループ（以下、WG）①学力向上の推進（学びの在り方、学力検査のとりえ、教育のDX化等）②全ての子どもの学びの保障（不登校児童生徒への対応、学びの多様な学校開設等）③部活動の地域展開④マンパワーの活用と業務見直し（栄養教諭等の業務改善等）に加え、「日本語支援」に特化した第五のWGを新設し、活動しています。各WGには、教育委員会事務局の職員も参加し、年3回の教育委員会との懇談会で各WGの成果と課題等を共有し、協議を深めています。その内容は、小・中学校長会にフィードバックされ、市や各校の課題解決に生かされています。

会員相互のつながりを大切にしながら、「わくわくする未来」を共に創る校長会であり続けたいと考えます。

学校紹介

学べ学べ いさぎよく

遊べ遊べ いさぎよく

三条市立西鱒田小学校

当校は、三条市街地の南部にあり、のどかな田園風景に囲まれている。学区は広く、十七の集落がある。今年度百八十八名の子どもたちが、昭和四十八年竣工の校舎を大切に使っている。

一 「校地を緑に」

校門を入ると左手にあるのが「ふるさとの森」である。竣工当時は、田んぼに囲まれた鉄筋コンクリート建ての近代的な校舎であったが、一方で緑のない殺風景な環境であった。地域のご尽力により緑化環境整備委員会を設立させ、校舎完成から二年後の昭和五十年、呼び掛けに応じた地域の方々から、実に三百本を超える樹木が集まった。PTA、地域、職員が二日ばかりで植樹し「ふるさとの森」が誕生した。あれから五十年、毎日子どもたちの成長を見守り続けている。

二 「学べ学べ いさぎよく」

明治十五年創立の当校は、今年度、百四十三年目を迎えた。昭和三年に制定された校歌の作詞者は外山且正氏。当校の地元、旧本成寺村の村長をされた方である。歌詞の一番は「学べ学べ いさぎよく」、二番は、「遊べ遊べ いさぎよく」で締められており、正に当校の子どもたちを象徴している。作曲者は奥好義氏。宮内庁邦楽部の楽師

で、国歌「君が代」の作曲者でもある。宮内庁御歌所参候の職にあった作詞者の外山氏が作曲を依頼し、作成されたものである。

三 「もっくれもーちゃどこ行った」

毎年一月、地域とPTAが主体となって当校グラウンドを会場に行われているのが「さいの神」。冒頭の歌詞は、その際に歌われている「もぐら追いの唄」である。この行事は、昭和六十年から一度も途切れることなく続いている。地域のひとと人がつながる大切な場であるという強い思いの下、コロナ禍にあっても万全の感染対策を行って実施されてきた。十メートルを優に超える竹の伐採と運搬作業、塔の周りに巻く「とば」を稲わらで編む作業、塔を建てる作業、それぞれの過程が地域、PTA、子ども、学校職員の協働で行われている。地域の絆を象徴する活動である。

地域とともに歩み続ける西鱒田小学校である。

県小学校長会
HPへアクセス学校経営に役立つ
情報満載